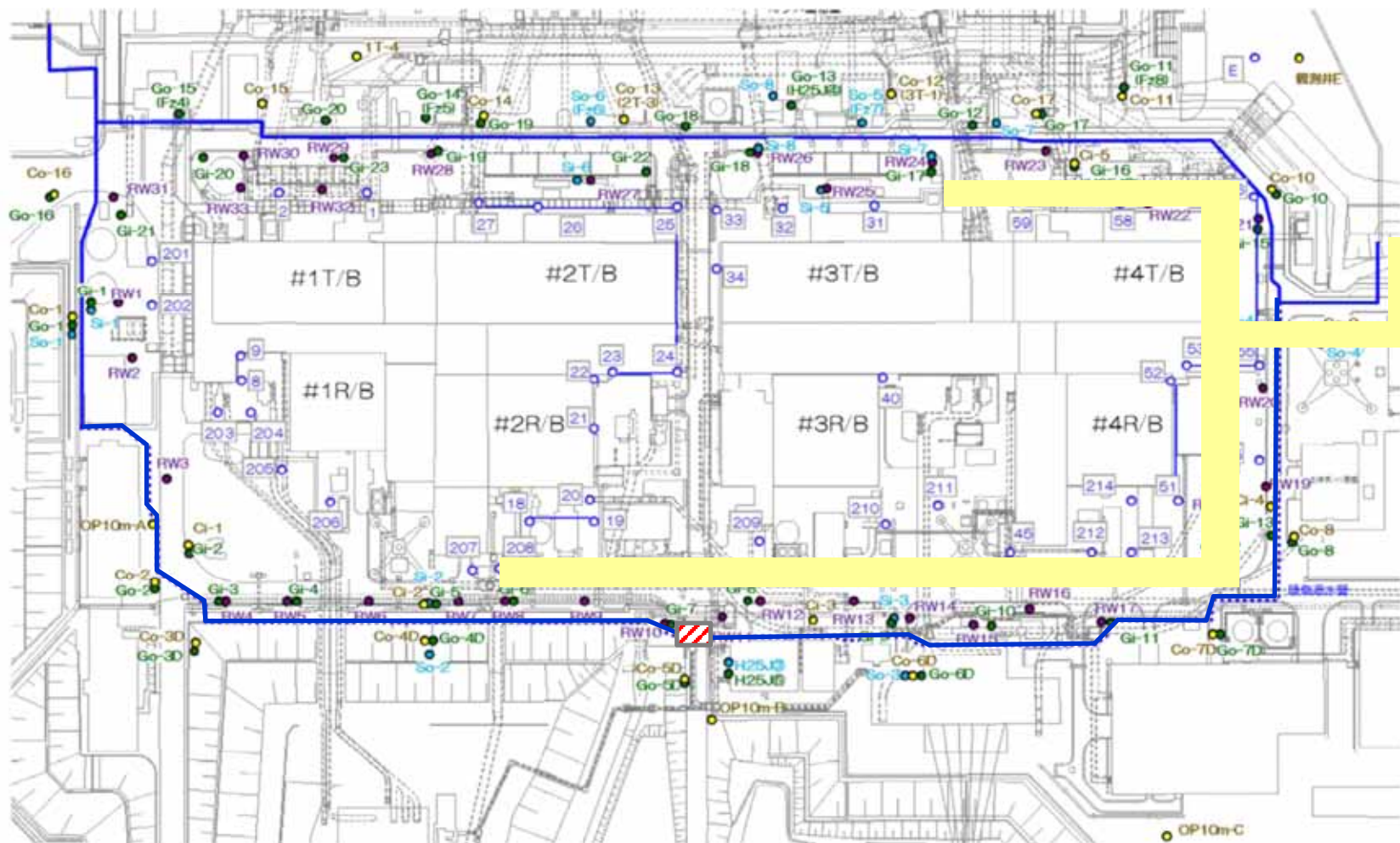


- 2019年12月26日午前11時頃、陸側遮水壁のブライン（冷媒）タンク水位を確認したところ、陸側遮水壁のブライントク2基（2A/2B）において、ブラインの水位が低下傾向であることを確認しました。（ブライントク水位は通常190～200cm、12月26日頃の水位は約170cm）
- 12月27日に漏えい箇所の調査を実施し、配管ピット内にて、ブラインが凍結管に入る手前にある継手部分で漏えいしていることを確認しました。同日、漏えい箇所（凍結管への送り枝管）の手前側にあるバルブを閉止し、当該箇所の漏えいが停止したことを確認するとともにタンク水位の状況について監視を継続していました。
- その後、水位のトレンドを監視していたところ、12月31日頃より、同じタンクにおいて、再びブラインの水位が低下傾向となっていることを確認（判断）しました。（確認日：2020年1月4日）（1月6日のブライントク水位は150cm弱のレベル）
- 本日（2020年1月6日）、漏えい箇所の調査を開始し、午前8時頃、前回と同じ箇所からブラインが漏えいしていることを確認しました。それを受けて凍結管からブラインが出ていく戻り枝管にあるバルブを本日8時30分頃に閉止したところ、当該箇所からの漏えいは目視上では停止したことを確認しました。今後、タンクレベルの水位を監視するとともに、漏えいした原因を調査してまいります。
- なお、ブライン漏えいについては、ブラインは30%塩化カルシウム水溶液であり、危険物・有害物質・汚染物質ではないことから、環境への影響はありません。（一般的には、道路の融雪剤として使用）
- 今後、状況を注視してまいります。低下傾向が継続した場合は、いったん凍結プラント（漏えい箇所を含む南側エリア）を停止し、地中温度の監視を継続しつつ、対応を検討してまいります。なお、地中温度が上昇した場合は凍結プラントを再度運転し、凍結機能を維持します。
- 仮に凍結プラントの運転を停止した場合においても、凍土壁が溶け始めるまでには数ヶ月程度の期間があることから、直ちに陸側遮水壁に影響が出るものではないと評価しております。

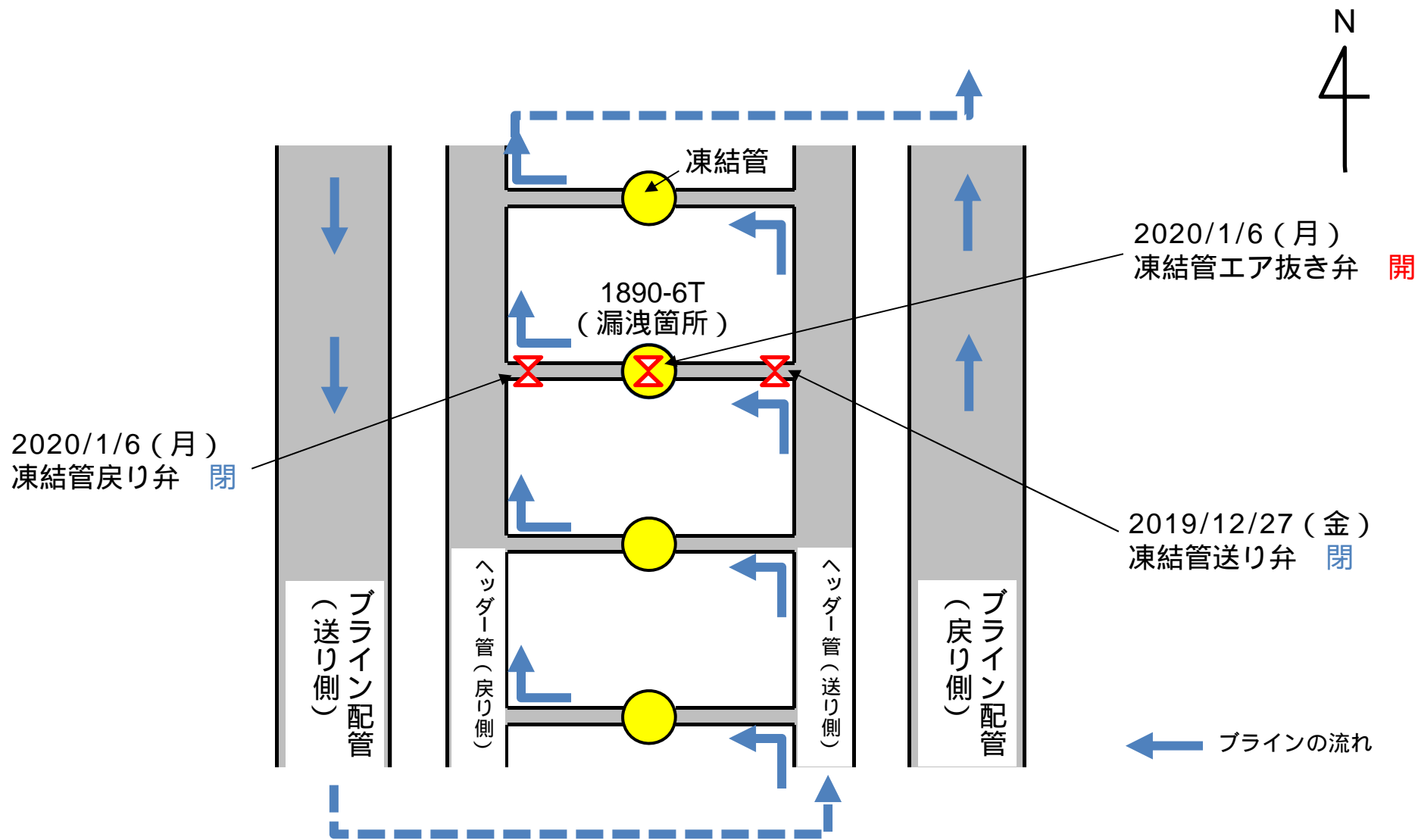
ブラインの漏えい箇所



■ ブラインタンク2A / 2B 受け持ちエリア

▨ ブライン漏えいを確認した配管ビット

ブラインの漏えい箇所



ブラインの漏えい箇所

